

ハンドメイド研究会『あっぷりけ』活動報告

米 持 広 美

1, ハンドメイド研究会「あっぷりけ」誕生

令和元年、乳児保育Ⅱの授業で乳児に語りかけるおもちゃとして、フェ



ルトで「2羽の小鳥」の製作を課題とした。このとき、「こんな製作の研究会があったらよかったのに」と話す1人の学生がいた。この学生は、私の中学校現場時代の教え子で、当時から、長い時間かけてテディベアなどの手芸品を作り、出来上がったら家庭科教諭であった私に見せては（自慢しては?）、また製作するという学生であった。おとなしく披露する仲間がいなかった彼女が、友達と様々なものをおしゃべりしながら楽しく製作をし、そしてこれを子ども達に



披露し、喜んでもらいたいと言い出し、研究会会員1名でスタートした。

2, コロナ禍の2年間の活動

	2年生	1年生
R2年度	1名	9名
R3年度	8名	5名

R2年度、本格的に活動をスタートさせるはずだったが、コロナ禍では研究会活動が制限され、集まることもままならず、ほとんどが、



打ち合わせのみで、個人で細々と製作を続ける2年間であった。唯一、初教事務室の壁に季節のオーナメントを飾り、披露することを楽しみにしてきた。

(1)R2 クリスマスオーナメント

縦1.5M、横0.8Mのツリーをコツコツとキルト仕立てにし、全員が順番に飾りをつけていった。折り紙の星は難しかったが、「これは、将来使える」と皆でマスターした。来年は、地模様のキルトにバージョンアップしようと誓った。



(2)R3 セタオーナメント

フェルト、折り紙、笹、竹、オーガンジーの布などいろいろな素材を使い、分担して製作した。長い天の川は苦勞したが、「保育者はこの作り方は絶対に知っておかなければ」の声が聞かれた。



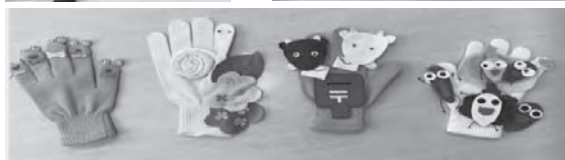
(3)R3 ウィンターフェスティバル

初めての披露の場ではあったが、ゲート装飾を担当することになり、研究会の製作や演技の方が後回しになってしまった。しかし、持ち味の明るさと度胸で、こじんまりとしたブースではあったが、園児との交流を楽しんだ



ウィンターフェスティバルを終えて 1年

進学して初めてのウィンターフェスティバル。私は研究会内での実行委員となり先生や研究会の皆さんとどのような演目や展示を行うのかを話し合いました。各自で手袋シアターやエプロンシアターを作り、そのあとにみんなで一つのテーマの手袋シアターを作ろうということになりました。フェスティバルまでの間に何度かみんなであつまり歌に合わせてどのような動きをするのか、園児たちとどのように触れ合うのかをみんなで考え、本番ではブースに来てくれた園児たちとたくさん関わることができました。これらの経験は実際に自分が保育者になったときにもどのように運営していくのかという視点に立つことができる貴重な経験になったように思います。



(4)R3 おんせん演劇祭in ビーコンプラザ

ウィンターフェスティバルで上手いかなかった点を中心に練習をし、園児の前で手袋シアターで「赤鼻のトナカイ」「ヤギの郵便屋さん」、エプロンシアターで「3匹の子ぶた」を

演じた。また、全員で「エビ・カニクス」を元気よく踊り、好評であった。



3, 成果と課題

コロナ禍の研究会活動ではあったが、個人作業と共同作業を組み合わせながら、楽しく活動ができた。小さな作品なので、なかなか発表まで出来ずにいたが、「ウィンターフェスティバル」や「おんせん演劇祭」など他の研究会と共同することで、発表の場を設けることが出来た。これからも、いつでも様々な活動に参画できるよう、楽しみながら製作を続けていきたい。

2年間の研究会活動を終えて 2年

短大に入学する前、手先が不器用な私は、手芸に特に苦手意識を持っていました。しかし、保育の授業を通して、様々な素材を使い、子どもの発達、興味関心にそったおもちゃや壁面などの製作をする必要性を学んだことで苦手なことに取り組んでみよう、という気持ちが生まれ、研究会への入会を決意しました。

私にとっての研究会での成果は、なんとと言っても、作ることへの苦手意識が減り、楽しさを感じられるようになったことと、先生との接点を増やすことができたことです。研究会のメンバー（同級生、後輩）や先生と、作ったものについての感想を言い合ったり、助言を受けたり、作業を共有しながらお喋りをしたりする時間がとても楽しかったです。自分の苦手を克服し選択肢を増やすことができましたし、繋がりを広げることができたと感じています。課題は、主体的に目標を持って取り組むことができなかったことです。イベントが近づく度に行き当たりばったりで作業をしたため、時間的に余裕がなくなり、作業をこなす状況になってしまったと感じています。年度の始めに行事を見越した計画を立てておくことや、余白の時間をとっておき、作業以外の交流を楽しむことができる余地を作っておくことが大切だと思いました。

短大生活において、クラス以外の居場所があったことで、経験を増やすことができてとても良かったと感じています。感じた課題を今後の社会人としての生活に生かしていきたいと思っています。